

# みんなで守り引き継いでいこう。

BOD(生物化学的酸素要求量)については、河川水環境の重要な指針となっています。

## 児童たちは水環境に興味津々

調査開始当日、5年生の皆さんは、「えひめA I」投入の前に、浄化槽の維持管理を請け負っているクボタ環境衛生の小野寺仁さんから浄化槽の役割を、そして市役所生活課から「えひめA I」の役割について学びました。その後、校舎の裏にある合併処理浄化槽施設の見学と、パルクテストによる水質調査を行い、「えひめA I」投入方法の説明を受けた後、実際に投入しました。5年生の皆さんは、学校の中に大きな水処理施設があったことや、「えひめA I」の白濁した色と発酵した匂いにとっても興味深い様子を見せながら、自

分たちの身の回りの水環境をきれいにしていこうという気持ちで取り組んでいました。

調査結果については、今後、広報すかがわでお知らせする予定です。

## 市環境審議会委員を募集します

市では、市長の諮問に応じ、須賀川市の環境に関する事項について審議する「須賀川市環境審議会」を設けています。このたび、委員の任期が満了するため、次により、公募委員を広く市民の皆さんから募集します。

**募集人員** 3人(応募者多数のときは抽選により決定)

**任期** 委嘱の日から2年間

**応募資格** 市内に住んでいるか勤務している20歳以上の人(ただし、現在市が設置しているほかの審議会や委員会などで公募委員に委嘱されている人、市税を滞納している人は応募できません)

**応募方法** 申込用紙に必要事項を記入のうえ、〒962-8601(住所記載は不要)須賀川市役所生活課あてに郵送または持参してください。

なお、申込用紙は、市役所生活課、長沼・岩瀬各支所で受け取れるほか、市のホームページからもダウンロードできます。

**募集期間** 10月6日(月)~24日(金)

市役所生活課 ☎(88)9130

「えひめA I」は、水環境に少なからず影響を与える化学薬品などを使用しないで、身近な食品で簡単に作る事ができます。きれいな水環境を保ち、またより良くするため、皆さんの家庭でも右の「作り方」を参考にぜひ作ってみて、実際に効果のほどを試してみましよう。

皆さんも「えひめA I」を作ってみましよう

## えひめA Iの作り方(500ml.ペットボトル1本分)

### 原料

- 納豆…1粒
- ヨーグルト(飲むヨーグルトでも可)…25g
- ドライイースト…2g
- 白砂糖など…25g
- 水道水…約450ml

### 準備物

- ペットボトル(500ml)
  - ミキサー(手で振っても良い)
  - ヒーター
- ※直射日光下で水温を35℃程度まで上げられれば不要です。

- 1 納豆、ヨーグルト、ドライイースト、砂糖を分量どおりペットボトルに入れる。
- 2 水道水を約450ml加え、ペットボトルをよく振る。
- 3 ペットボトルのフタを緩め(内部でガスが発生し危険なので必ず緩めてください)、35℃の状態です1週間放置する。
- 4 イースト菌が発酵するためパンやお酒のような良い発酵臭がすれば成功

※菌が発酵する前に雑菌が繁殖してしまうことが多くあります。そのときは腐敗臭がしてきますので、やり直してください。

### 使い方

台所・トイレ・浴槽の掃除、生ゴミ・ペットの臭い消しなどが一般的な使い方です。掃除には「えひめA I」の上澄み液を、悪臭消しには全体をよく混ぜた状態で使います。

### (例)

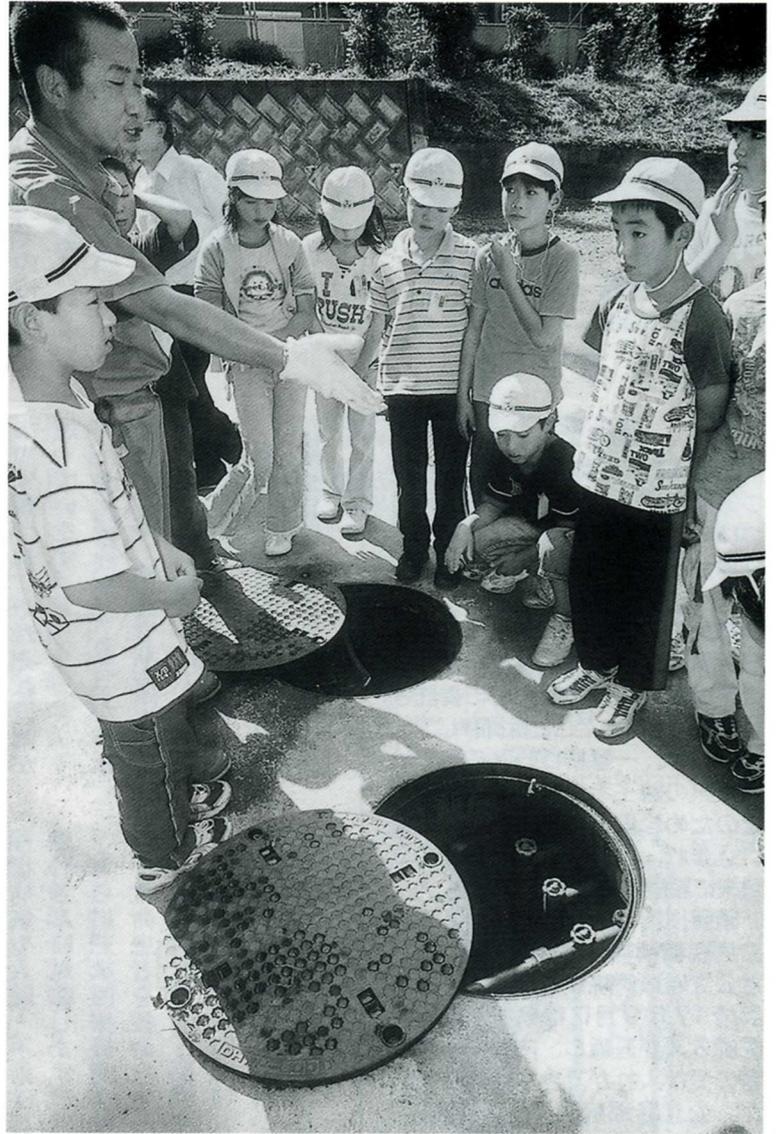
- トイレ掃除…便器に毎週100ml程度使用する
- トイレ消臭…便器にスプレー
- 台所掃除…調理後の流し台に50~100ml程度入れてヌメリ取り
- 生ゴミ消臭…スプレーで噴霧

### 使用上の注意

「えひめA I」を直接河川へ投入すると、菌が効果を発揮する前に沈殿してしまい、逆に河川環境へ負荷を与える可能性も考えられることから、直接投入は控えましょう。

# 川の水環境

市内には、阿武隈川、釈迦堂川など多くの川が流れ、その景観の美しさだけではなく、水道用水や農業用水として利用されるなど、私たち市民の生活を豊かにしてくれています。私たちはこれらの川をよりきれいにし、また将来の世代へ引き継いでいかなければなりません。今月号では、西袋第二小学校で始めた「環境浄化微生物」「えひめA-I」を使用し、水質浄化効果を確かめる「えひめA-Iモニタリング調査」について、その内容をお知らせします。



小野寺さんから浄化槽の役割について説明を受ける西袋二小の5年生の児童たち。みんな真剣な表情で聞き入っていました(8月29日)

## 約7か月間のモニタリング調査を開始

浄化槽から流れる処理水や生活排水は、直接河川の水環境に影響を及ぼします。

今回、環境保全活動に対して積極的に取り組んでいる西袋第二小学校の5年生に協力してもらい、小学校で使用している合併浄化槽(70人槽)に「えひめA-I」を投入した結果、どのような水質効果が表れるのかを8月29日から来年3月までの約7か

## 調査項目表一覧

### ①小学校で調査する項目(バックテストによる調査)

項目	調査時期	内容
COD (化学的酸素要求量)	毎週1回	水中にある物質が酸化するとき消費される酸素量の数値。COD値が高いほど、水中の酸素を消費することになり、汚れ度合いが強くなるということになります。
pH (水素イオン濃度)	毎週1回	酸性、アルカリ性の度合いを表す数値。数値は0~14まであり、浄化槽は中性(pH値7程度)が適当な濃度となっています。
アンモニア態窒素	毎週1回	アンモニウム塩を窒素量で表したもので、アンモニア態窒素が高いほど、塩素を消費したり、異臭の原因となったりします。

### ②市で調査する項目

項目	調査時期	内容
BOD (生物化学的酸素要求量)	毎月1回	水中の有機物が微生物の働きによって分解されるのに要した酸素量の数値。このBOD値が高いほど有機物の量が多く、汚れが大きいとされています。

月間に渡り調査していくことで、水環境の保全や快適な生活環境への関心を高めていきます。

## 安心して使える「えひめA-I」

「えひめA-I」とは、愛媛県工業技術センターで開発された環境浄化微生物です。これは酵母、納豆菌、乳酸菌を主体に糖蜜を用いて作るもので、すべて食品から作られているため環境にやさしく、安心して使えるものです。「えひめA-I」には、トイレの消臭効果や浄化槽内の汚泥を処理するバクテリアを活性化させるなどの効果があります。

## 投入量は1日に10リットル

まず、浄化槽に入る一番近い

汚水ますから、「えひめA-I」を毎週月曜日から金曜日まで1日10リットルの量を、午前11時30分から午後2時30分までの3時間投入します。

このような方法で投入する理由は、給食の準備や食器などを洗う時間帯が、浄化槽の中に一番多く排水などが流入する時間であることと、一度に「えひめA-I」を投入すると、浄化槽内のバクテリアに行き届かず、逆に負荷を与えてしまう危険性があるからです。

## 調査項目は河川水環境の重要指針

浄化槽内の最終放流水を取水して調査を行います。調査項目は、右の表のとおりですが、特にCOD(化学的酸素要求量)と